

広島東支部 広報だより

広島県看護協会広島東支部会員数	
保健師	49人(入会率32%)
助産師	29人(入会率60%)
看護師	1,346人(入会率55%)
准看護師	29人(入会率 3%)
合計	1,453人(入会率41%)

支部長挨拶

広島東支部長 尾崎 仁美

平素より広島県看護協会広島東支部の活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。今年度、支部長に就任しましたマツダ病院の尾崎と申します。さて、新型コロナウイルス感染症との戦いは長きにわたっております。withコロナ時代に突入し、社会経済活動は活性化していますが、医療従事者にとっては、第8派の到来により厳しい環境が続き、ストレスfulな日々が続いていることと存じます。こういった中、東支部では役員一同知恵を出し合い事業遂行に向けて活動しています。

具体的には、昨年度から取り入れたweb研修を発展させ、支部内の5つの施設をオンラインで結び、ハイブリッドで研修会を開催するなど、工夫しながら会員の皆さまが参加しやすい環境を取り入れています。こういった研修事業は、感染拡大下においてもwebで実施出来ていますが、イベント型の「まちの保健室」や進路相談会は残念ながら今年度も見送ることになりました。

この企画は次年度に活かしていきたいと思います。これからも、地域住民の健康と福祉の向上のため、また、看護職がイキイキと働き続けることができるよう支部内で連携を強化し、この困難な状況を乗り越えていきたいと思っています。

令和4年度 東支部総会 リフレッシュ研修

日時／令和4年4月23日(土) 場所／JR広島病院

令和4年4月23日(土)に令和4年度広島県看護協会広島東支部総会開催しました。新型コロナウイルス感染対策に留意し、支部総会後のリフレッシュ研修も開催できました。

昨年に引き続きテーマは「癒し」とし、フラワーアレンジメントを企画し、奥平敦子先生をお迎えしました。ピンクのバラやカーネーション、カスミンソウ等で、参加者は個性あふれる素敵なお花ケーキを作成しました。改めて花の持つ癒し効果を実感する時間でした。



令和4年度 役員紹介



支部長
尾崎 仁美
マツダ病院



副支部長(連盟担当)
小早川 清美
太田川病院



副支部長
勝田 佳民
安芸市民病院



幹事(総務)
大亀 彩子
済生会広島病院



幹事(財務)
福田 洋子
JR広島病院



幹事(社経)
吉田 和代
太田川病院



幹事(教育)
蔵永 敦子
マツダ病院



幹事(教育)
山本 亜紀子
JR広島病院



幹事(教育)
田中 正志
安芸市民病院



幹事(教育)
折出 和美
訪問看護ステーション
アルファ矢野



担当理事
萩原 七帆子
安芸市民病院



事務
中原 麻裕
広島東支部事務所

現在活躍中

プラチナナース

◆ プラチナナースとして私が取り組んでいること —みんなが笑顔で働ける職場づくりと後継者の育成—

社会福祉法人恩賜財団済生会広島病院
副院長兼看護部長 池田 ひろみ



“プラチナナース”ってなんだかキラキラした重みのある素敵な呼び名だな・・・と感じていましたが、その仲間入りができたことをとてもうれしく思います。

私は現在、看護管理者として働いています。当院では看護部長の定年は65歳とされているので、あと4年間(短くなるかもしれませんが)で安心して後任へ道を譲れるよう、みんなが笑顔で働ける職場づくりと後継者の育成に励んでいます。

私は国立病院機構の病院の看護師や看護学校で教員として5か所に転勤し、様々な経験をさせていただきました。その後2009年から当院に勤めています。遠藤周作さんの言葉に「人生には何ひとつ無駄なものはない」とありますが、過去を振り返ってみると、

辛かったこともたくさんありましたが、そのおかげで今があることをしみじみと感じています。

今、医療現場は、社会や経営環境の変化により様々な変革が迫られるため、その時々合った変革を牽引していく後継者が必要です。「プラチナナース」は、自分のこれまでの経験をふまえ、持っている能力を発揮し、いきいきと、働き続けている看護職員といわれています。私は、これまで積み重ねてきた看護師・教員経験・人生経験を総動員させて、今後もよりよい職場づくりと、当院の理念である「優しく、温かく、確かな医療」を実践できる後継者の育成に力を注いでいきたいと思っています。

◆ プラチナナース

太田川病院 外来 川口 千恵



私は、内科クリニックを退職後、10年間のブランクがありました。看護師として働くことに不安がありましたが、知人のすすめがあり、太田川病院に就職させて頂きました。

就職した年は病院機能評価がはじまり、その後電子カルテ導入もあり、いろいろな経験をさせて頂きました。50歳になった年に広島県糖尿病療養指導士の資格を取りました。年に一度、糖尿病腎症重症化予防プログラムに参加し、糖尿病が重症化するリスクが高い患者さんが腎不全・人工透析への移行を防止することを目的に保健指導を行っています。ここ数年のコロナ禍での外来勤務、クラスター施設点滴治療への参加は、感染症対策としての

ゾーニング、手指衛生、PPEの着脱方法、環境整備について貴重な学びと体験が出来ました。外来勤務18年、のんびりしているうちに60歳、定年を迎えてしまいました。もう少し頑張りたい、働きたいという気持ちで常勤での再雇用を希望しました。尊敬できる上司とかけがえのない同僚たちと一緒に外来で勤務しています。反省の毎日ですが、60年間の人生経験と看護師としてのキャリアが活かされるように日々務めています。時折、通院歴の長い患者さんから「がんばっとるのー」「がんばってーよ」と声を掛けられます。「ありがとうございます」うれし恥ずかしながらも元気を頂いています。

◆ 経験が活かせるステージへ —オレンジナースとしての出発—

安芸地区医師会総合介護センター
安芸区オレンジ支援チーム 戸田 公子



安芸地区医師会総合介護センターは、介護保険制度が始まる前から在宅看護を実践してきた歴史があり、これまでもたくさんの経験豊かな看護師が活躍してきた職場です。私の場合は、子育てに時間の余裕が出たのを機に入職し、17年間訪問看護に携わりました。利用者の生活と、その思いにより添った訪問看護には専門職としてやりがいもありますが、何事もマニュアル通りとはならない難しさがあります。訪問を心待ちにしてくださる利用者のケアは充実感に浸る一方、時には訪問を拒むケースや介護困難ケースでの家族対応に苦慮する場面などです。しかし信頼関係構築のためのコミュニケーションの取り方や対応は、年齢を重ねた気持ち

のゆとりとこれまでの経験が活かされることもあり、スタッフからの相談相手の役割を果たす事などが仕事を続けるモチベーションに繋がっています。そして現在は、当医師会が委託されている安芸区認知症初期集中支援チーム所属に変わりまた新たな1歩を踏み出したところ。認知症やその疑いのある方、生活の困りごとや不安を抱えておられる方に訪問し、症状にあった適切な対応法の助言や、必要な医療やサービスにつなぐことが役割です。これもまた新しい挑戦になりますが、この活動が地域に役立てていただけるよう自分のできることを探りながら歩いていきたいと思っています。

◆ プラチナナース「わたし」頑張れ

医療法人JR広島病院 病棟 中垣 久美子



早期退職をしたいと旦那が宣言後、料理以外の専業主夫兼、時々パートの夫に自宅を任せ唯一の働き手となって早7年。数年前、退職後もシニア社員として一家の担い手となり働き続けることになりました。シニア社員になっても夜勤がしたいと願う私に、退職前と同じ病棟で夜勤もどうぞと優しい対応をしてもらい現在に至っています。

お肌の曲がり角は、実感として感じましたが、体力の曲がり角は60歳過ぎても今のところ感じたことはなく、いつまでも自分は若いつもりで日々仕事に励んでいます。ただ、老眼は避けられず、若い後輩の視力に頼る日々で、小さな薬品の表示を確認する時は、間違えていないか緊張し老眼鏡が必要です。快く助けてくれる後輩スタッフに感謝の毎日です。

また、日進月歩の医療現場では、若い人から習うことも多く、毎日が学びの現場で、新しい情報を得るために柔軟な頭が必要だと思います。

超高齢社会となり、働けるうちは老いても働く社会となれば、80代でも現役として働けるのではと密かに期待しています。日々思うことは入院されてきた患者さんが、医療スタッフからどの様な対応をしてもらったら安心して入院生活が送れるのか、自分がその立場になった時のことを考えて仕事をしていこうと思っている事です。

しっかり稼いでおいでと送り出してくれる旦那の声に、気力、体力、知力が衰えませんが、「わたし」頑張れ、看護師の皆様、元気で働けることを楽しみましょう。

◆ 各施設におけるプラチナナースの活躍

安芸市民病院 透析室 棗 小世子



私は、7年前に定年退職を経て、現在も安芸市民病院の透析室で嘱託職員として勤務しています。

勤務時間は、週4日間の32時間勤務ですが透析室の勤務体制上、超過勤務もあります。

透析室看護師の中で最高齢になり、自分の子供や時には孫と思えるような年齢の看護師と一緒に透析患者さんの看護を実践しています。毎日の透析開始から終了まで安全で安楽な透析治療の実践と、患者さんに「あなたがいてくれてよかった」と思ってもらえる看護師になれるように、看護実践の中で自分の経験から得た知識や技術をともに働く人に伝えていけたらいいと思っています。また反対に教えてもらう事や気づかされる事も多く、ギブ&テイク、お

互いwin-winの関係で仕事ができるように心がけています。

また、透析室での災害対策を担当しており、様々な災害発生時(断水・停電・火災・地震など)でも落ち着いてスタッフが動けるようシミュレーションの実施をしています。そして、災害発生への備えなど患者さんを巻き込んだ取り組みを進めています。

新型コロナウイルス感染拡大が続き、病院内の看護体制も常に変化・対応を求められているなか、できる限りの協力をし、今後は、自己の健康管理にも気を付けながら、透析室でのOJTと災害対策に取り組んでいきたいと考えています。

◆ 病院と地域への橋渡しができるプラチナナースを目指して

マツダ株式会社マツダ病院 外来 松田 隼子



私は、看護専門学校第二看護科を卒業後23年間マツダ病院に勤務し、昨年12月に退職後は再雇用制度を利用しフルタイム勤務をしています。定年を機に主任看護師の役職や当直勤務を卒業したことで、心身ともに楽になったというのが本心です。

現在は、退職前と変わらず皮膚科外来に勤務しています。12年前に皮膚・排泄ケア認定看護師の資格を取得したため、主にストーマ外来や皮膚科外来で褥瘡・下腿潰瘍などの創傷ケアやスキンケアなどの実践・指導・相談業務を行っています。また、排尿自立を目的とした排尿自立支援チームに所属し院内ラウンドなど活動をしています。

数年前、施設から来られた壊死組織がある褥瘡患者さんに出会いました。病院に入院しているとデブリードマンは容易に実施で

きます。しかし在宅や施設に入所中の方は、壊死組織を除去するために度々受診することは本人や周囲の方にも負担を強いることになります。

この患者さんとの出会いを機に、2021年に医師の指示(手順書)があれば、在宅や施設においても処置ができる特定行為(在宅・慢性期領域)を修得しました。現在は、皮膚科外来で医師の指導下で褥瘡患者のデブリードマンを実践していますが、やはり病院だけでは完結しない事例も多く、在宅や施設に継続ケアの依頼をしています。

2025年の到来を前に、今後は病院内のみならず、地域の患者さんのために、病院と地域をつなぐプラチナナースとして、特定行為の実践を通し社会貢献できたら良いと思っています。

研修報告 東支部研修会開催

日時：令和4年7月9日(土)

広島東支部研修会を、令和4年7月9日(土)JR広島病院にて開催いたしました。

内容は済生会広島病院、老人看護専門看護師の北木弥生様による「高齢者の看護そのひとらしく生きるために看護師ができること」というテーマでご講演いただきました。

32名と多くの方のご参加があり、意思決定支援の重要性やACPについて、大変わかりやすくご講義いただきました。参加者の皆様から患者家族の対話の重要性や、ACPを活用していきたいなど実践で活用したいと感想が寄せられ、学びの多い研修会となりました。 教育担当 山本 亜紀子



研修報告 社会経済福祉研修会開催

日時：令和4年9月17日(土)

社会経済福祉研修会として、JR広島病院公認心理士坂本結里先生を講師に招き「ストレスマネジメント」をテーマにオンライン研修会を開催しました。

個人ワークを複数取り入れ、自分の思考や行動を振り返り、ストレスに気づくこと・対処行動を学ぶことができました。

看護職は、命にかかわる責任の重い仕事であり、交代制の勤務や人間関係など、多くのストレスを抱えやすい仕事とされています。

ストレスを自覚し上手に付き合っていけるよう、研修の学びを活かしていただきたいと思います。 社教担当 吉田 和代



研修報告 組織強化研修会開催

日時：令和4年12月3日(土)

令和4年12月3日(土)組織強化研修会を、ZOOMにて開催いたしました。会員34名、非会員4名と多くの方ご参加いただきました。

看護連盟について小早川清美様、看護協会について荻原七帆子様の説明いただき、「在宅看取りについて」を看護協会訪問看護ステーション「ひろしま」遠藤泰子様よりご講演いただきました。

在宅看取りの求められる背景、訪問看護の現状、事例など大変内容の濃いまた、看護の力の偉大さをお話しくださり、参加者の皆様から、共感と大変勉強になったなど、感想が寄せられ、大変有意義な研修会となりました。 教育担当 山本 亜紀子



看護研究のサポート

今年度の看護研究サポートは、広島国際大学の准教授江口千代先生をお招きしました。講義を含め、コロナ感染の状況により、対面とZoomを利用したオンラインで4回、研究サポートを開催いたしました。

サポート施設は、安芸市民病院の1施設でしたが、研究の方向性から抄録作成までとても熱心に指導していただきました。研究を深めると共に、とても良い学びとなります。4月に募集しますので是非、参加をお願いします。

教育担当 蔵永 敦子

編集後記

新型コロナウイルス感染拡大の影響を本年度も大きく受け、中止になった研修会もありましたが、ZOOMを利用したハイブリッド形式の研修を行うことができました。日々の生活に於いても徐々に新型コロナウイルスとの共存を意識するよう1年であったと思います。来年度もそれぞれの場所で看護の力を発揮し協働できたらと思います。／折出

[発行日] 2023年2月発行

[発行所] 公益社団法人広島県看護協会 広島東支部
〒732-0052 広島市東区光町1丁目6-8 第二吉岡ビル 603号室
TEL/FAX:082-262-3524
E-mail: s-higashi@nruse-hiroshima.or.jp

[発行責任者] 尾崎 仁美